令和5年度　学校評価表 【自己評価】

三次市立甲奴小学校

経営理念（ミッション・ビジョン）
・よりよく積極的に生きるための基盤として「郷土を誇りに思う心」を育て，地域や社会に貢献しようとする意欲や態度をもった人材を育てる。
・変化の激しい社会の中で，グローバルな視点をもち，国籍や互いの立場の違いを超えて，協調し協働して生きていくことができる力をつける。
〇育成したい資質・能力　①「コミュニケーション能力」　②「課題を発見し解決する力」　③「乗り越える力」

＜学校教育目標＞
「文武両道」
すすんで　きたえ　みがき　のびる
～社会の変化に対応できる心豊かでたくましい子どもの育成～
＜めざす学校像＞
〇すすんで ・・・・・・・・・・・・・・・・・子供の主体性を伸ばす学校
〇きたえ・みがき・・・・・・・・・・・個々の持ち味を発揮させる学校

＜甲奴中学校区のめざす子供像＞
「ふるさと甲奴を誇りに思い，自らの未来を切り拓いていく子供」
＜甲奴小のめざす子供像＞
「文武両道」をめざす子供
☆自分が好き・・・夢（目標とする姿）を持ち自ら進んで最後までねばり強くやりぬく子供
☆友だちが好き・・・友だちのよさを見つけ，自ら進んで一緒に働き，遊び，学ぶ子供

評価計画						自己評価								学校関係者評価	
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	指標 （効果を見とる目安）【担当】	目標値	7月 達成値	7月 達成度	7月 評価	12月 達成値	12月 達成度	12月 評価	結果の分析	改善策	評価	コメント
確かな学力の育成	「コミュニケーション能力」・課題を発見し解決する力」・乗り越える力」を育てる 全国水準の学力をつける（知識・技能，思考力・判断力・表現力，学びに向かう力の育成）	〇基礎的・基本的知識・技能の習得と定着	・基礎的な知識や技能の習得・定着を図る。 ・パワーアップタイムの充実に努め，基礎的な学力向上を図る。	・評価テスト(国語・算数）で得点が80点を超える児童の割合【石川・岡野】	70%	72.8%	104%	A	73.2%	105%	A	・国，算の評価テストについては，目標値の70%を上回ることができた。しかし，学年によっては差が見られた。低（国91.8%，算89.7%），中（国66.2%，算57.4%）高（国70.0%，算65.0%）ごとに結果を見ると，特に中高学年の算数科の学習に課題がある。したがって，基礎学力が十分あるとは言い切れない実態がある。 ・計画的にパワーアップタイムの取り組みを進めた結果，指導者評価の実施率と充実度合いは共に100%となった。学期途中に指導者同士で進捗状況を交流し合ったり，実施日数の確認や実施日を変更したりしたことも大きい要因と考えられる。しかし，児童が自己目標を達成できたかどうかについては，55%と目標値をかなり下回る結果となった。中間報告時（2学期当初）にも児童の自己目標の在り方について周知をしたが，確実に実施してもらえなかったことが原因である。共通の取り組みが，出来なかったことは大きな反省点である。	・パワーアップタイムや授業の始めに四則演算や漢字を反復的に行い，知識・技能の向上を図る。また，三次市学力テストの分析を行い，今年度中に児童の実態・課題を把握し，次年度の取り組みにつなげていく。さらに，教科指導の具体的な改善点を全教職員で共有し確実に指導にあたる。 ・計算や漢字の書き取りなどをより確実に身に付けさせるため，今後もパワーアップタイムを計画的に実施していく。実施にあたっては，実施回数・内容・目標設定の仕方など指導者同士で共通認識をもって，取り組みを確実に実施する。		
				・パワーアップタイムでの個人目標を達成した児童の割合（児童自己評価） ・パワーアップタイムの実施率，充実度合い（指導者自己評価）【野曽原】	80%	82.7%	103%	A	77.5%	97%	B				
		〇対話のある授業づくりによる思考力・判断力・表現力の育成	・外国語教育での単元開発の手法（単元ゴール：ファイナルタスク）を算数科等に活かす研究を推進し，授業改善を行う。	・単元ゴールを明確にした授業の充実度合い。（指導者による相互評価）【長手】	80%	93.1%	116%	A	93.6%	120%	A	・中間時より僅かではあるが達成値が上がった結果となった。1年を通して，指導者による相互評価が9割以上の肯定的評価になったのは，単元ゴールを明確にした単元及び教材研究，授業改善が進んだ成果と考える。今後も児童にめざす姿や身に付ける力（ファイナルタスク）を明確にし，共通認識を持たせた実践に取り組む必要がある。 しかし中間報告と同様に，外部からの評価と本校との間には約1～2割の差が見られた。本校の相互評価は比較的高かったが，ファイナルタスクを児童に示した授業と捉えられていない。授業後の研修で，自分ならどの様な改善策を行うかという視点で協議にも取り組んだが，まだ十分でなかったことが伺える。	・次年度も単元ゴール（ファイナルタスク）を意識した授業改善を図っていく。特に，体育科授業においても「どのような力を身に付けるのか。」「本単元でどのような姿をめざすのか。」この2点については，児童にも分かりやすい言葉で伝え，児童と指導者が共通認識のもと授業改善に取り組んでいく。 さらに，授業後の校内研修をより充実させ，具体的な改善策について活発に話し合い，研修で挙げられた課題を改善する授業作りに取り組む。		
		〇学びに向かう力の育成	・指導者が相互に授業参観をし合い，児童が主体的に学び合う学習リーダーを中心とした授業作りを行う。	・リーダーノートの作成と充実度（冊数・ページ数）（指導者自己評価）【土井】 ・指導者が互いに授業を見合い，学習リーダーを中心に自ら進んで学習に取り組む授業の度合い（指導者による相互評価）【長手】	80%	90.6%	113%	A	85.0%	106%	A	・リーダーノートの作成と充実度の指導者評価は，76.5%となり目標を下回った。全学年で学級や児童実態に応じたリーダーノートを作成することに取り組めたのは成果として挙げられるが，学年差が大きく作成・充実度は十分でない結果となった。ノートの内容については，児童が読みやすい工夫を行っている学級も多いが，児童の立場に立ったリーダーノートとなっていないものも見られた。今後も教材研究を充実させ，児童自身が主体的に学習を進めるためのリーダーノートにしていく必要がある。 ・学習リーダーを中心に自ら進んで学習に取り組むための指導者評価は，93.5%と目標を上回った。算数科を中心に学習リーダーが定着し，主体的に学習しようとする子が全学年で見られるようになったからである。しかし，具体的な支援が必要であるのに，児童への支援や手立てが十分でない場面もあった。切り返し発問をするなど指導者も一人の授業参加者として積極的に関わる事も必要であったと考える。	・今後も，校内研修で定期的にリーダーノートの実践交流を行ったり，指導者が他学級の授業を参観したりするなどの「かるがも参観」を行ったりするなどの取り組みを行う。また，児童の立場に立った教材研究の在り方・リーダーノート作成についても研修を行っていく。 ・次年度以降も学年，児童実態に応じた学習リーダーを育成する取り組みを進める。次年度は，算数科など教科学習だけでなく，体育科授業にもできるだけ取り入れ，児童が主体となって学べる様にする。その際，初めは形式的であっても児童主体で授業を進め，深い学びができる授業をめざしていく。		
豊かな心の育成	規範意識を高め，思いやりの心を育成する	〇規律のある学校生活 ・あいさつ ・無言集合	・学期ごとにあいさつテーマを焦点化し，徹底した取り組をする。 1学期テーマ「じぶんから」 2学期テーマ「だれにでも」 3学期テーマ「いつでもする」 ・全校朝会と一斉下校時に無言集合の徹底を図る。「無言集合」の呼びかけボードを掲示し，意識を高める。	・「あいさつ」に関する生活アンケートで肯定的に自己評価する児童の割合，及び教職員の見取り調査【信野・力石】	80%	95%	119%	A	100%	125%	A	・あいさつについては，高い数値で結果がでている。1階廊下に設定している「あいさつの木」も「見える化」の取り組みとして児童にとっては有効なツールになっている。また，あいさつがよい児童を全校児童に紹介し，褒めることで，意欲を高めた。また，小中一貫の取り組みである「先言後礼」も声掛けを日常的に行い，意識している児童がたくさんいる。 ・無言集合については，高い数値となり結果がでている。カードで絵と言葉で「見える化」する工夫も有効的であった。	・三次市で一番大きな声であいさつ出来る学校を名実ともに確立していく。そのために，「あいさつの木」に代表される「見える化」の取組を継続していく。また，ねばり強く指導する指導者の気構えも重要と考え取り組んでいく。無言集合を継続させるためには，「呼びかけボード」等の提示を，指導者が指導用ツールと認識し，利用していくことも必要である。そしてやがては，「呼びかけボード」がなくても無言集合出来るようにしていく。		
				・「無言集合」に関する生活アンケートで肯定的に自己評価する児童の割合，及び教職員の見取り調査【信野・力石】	80%	100%	125%	A	100%	125%	A				
		〇思いやりの心の育成	・2か月に1度場に応じた言葉使いの指導をする。 ・道徳ノートに着実かつ素直な思いを記入をさせる。 ・縦割り班遊びを月に1度，学年間遊びを学年の思いに応じて交流させる。	・言葉使いに関するアンケートで肯定的に評価する児童・教職員の割合【信野・力石】	80%	98%	123%	A	95.0%	119%	A	・言葉使いについては，高い数値ではあるが，1学期よりも数値が下がった。児童会を中心に「いいところ見つけ」の取り組みも行っているが，優しい言葉かけを引き続き評価していく。 ・思いやりの心については，道徳ノートに自分の考えを記入することで自分の姿を振り返り，学びが実生活に生かしやすくなっていることが大きい。	・言葉使いの指導は，高学年のリーダー性にまかせず，中学年・低学年とも指導を丁寧に継続させたい。思いやりの心と合わせて，道徳の時間に指導した内容を実生活に生かさせる視点をもって，各担任が学級経営を進めていく。また，場に応じた言葉使いの指導と学年間の遊びを復活することで年度末に向けて思いやりの心と良い言葉遣いが続くようにしていく。		
				・「思いやりの心」育成に関する教職員の見取り調査の割合【信野・力石】	80%	97%	121%	A	98%	123%	A				
健やかな体の育成	自ら目標をもち，進んで体力の向上，健康の保持増進に取り組む意欲・態度を育てる	〇体力の向上	・毎週月，水，金曜日にランランタイム（業間運動）を実施する。 ・新体力テスト結果，数値の低い種目に特化した取り組む。 ・水泳記録会，マラソン大会では，自己目標を設定させて目標達成に向けて取り組ませる。	・新体力テストの分析に基づく取り組みの結果，前年度全国平均値を上回る児童の割合【梅田】	60%	46%	77%	C	50.0%	83%	B	新体力テストの結果を受けて「握力」と「長座体前屈」について，主に大休憩と体育の授業で活動した。握力を鍛える活動と，柔軟運動，柔軟性の向上が期待できる「風っ子ダンス」に取り組んだ結果，「握力」は春の18%から44%，「長座体前屈」は春の15%から53%まで上昇した。全校を上げた取り組みにより，98%の児童が数値の伸びを記録することができた。	今年度は特に達成率の低かった2項目に重点的に取り組んだ結果，ほとんどの児童が春の記録よりも良い結果を出すことができた。今後としては，楽しく主体的に全校を上げて運動に取り組み児童の体力を向上させることができたことを一つの実績として，令和7年度の広島県体育科教育研究大会に向けて，より一層体力づくりの機運を盛り上げていきたい。		
				・自己目標を達成した児童の割合【信野】	70%	90%	129%	A	84%	120%	A	マラソンの自己目標を達成した児童の割合は高い結果となった。マラソン大会に向け例年大休憩に行ううランランタイムの実施期間を長くとったことが的好結果の一因として挙げられる。さらに，児童の設定した目標に対して指導者が助言・激励を行い，マラソン大会本番で好タイムが出るよう学校全体で機運を高めていったことが功を奏したと言える。	今回のマラソン大会は例年より一層健康状態に留意し，練習段階から健康状態を確認し保護者の方に一筆頂く形式をとった。また，学校全体でも換気と手洗いの徹底により感染症の流行を抑えた。これらにより，自己目標を達成した児童が増加したとも考えられる。来年度も，適切な目標設定・安全管理・健康管理によって，児童が自己目標を達成し，自信をつけられるようにしていきたい。		
		〇健康的で規則正しい生活の実践	・食の大切さ，基本的生活習慣確立の大切さを年間6回指導する。 ・ノーメディアデーの毎月実施。改善点を基本的生活習慣の指導に活かす。	・食生活，基本的生活習慣に関するアンケートで，肯定的に評価する児童の割合【加美川・柚木】	85%	85%	100%	A	81%	95%	B	・課題であったメディアについて，依存のしくみや自らコントロールする必要性に関する保健だよりや児童保健委員会での提議，ポスター作りから，高学年に大幅な改善が見られた。 ・達成値の低下の原因は，生活リズムチェック期間が学習発表会の直前の週と同時期だったことが考えられる。 ・学年別食育指導，縦割り班給食の実施もあり，朝食喫食率は良い。	・依存やメディアコントロールに関する情報提供や保健指導は，保護者を巻き込む形（呼びかけ等）にする ・生活リズムチェックを行う時は，主体的に目的意識を持って行うことができるよう，落ち着いて取り組むことができる時期に行う。		
				・ノーメディアデーに関するアンケートで肯定的に評価する児童の割合【加美川・柚木】	85%	96%	113%	A	97%	114%	A	・引き続きどの学年も前向きに取り組んでいる。 ・ふりかえりも肯定的な言葉が多い。保護者からも家族のふれあいの時間を過ごしているという意見も多くみられ、家族全体で取り組んでいる様子がうかがえる。	・ノーメディアデー当日だけでなく，長期休暇前後などのメディアコントロールが必要な時期に，ノーメディアデーで行っている過ごし方を活用できるよう呼びかけや，メディアコントロールの必要性を理解したうえで実施できるような工夫をする。		
信頼される学校	安全・安心で信頼される学校をめざす	〇危機管理の徹底と指導力の向上	・感染症対策等を含めた危機管理体制の充実 ・働き方改革による「子どもと向き合う時間」の確保 ・授業研究等による指導力の向上 ・コミュニティ・スクールの推進	・危機管理対策研修を学期に1回以上行う ・危機管理体制について，保護者アンケートでの，肯定的評価【教頭】	85%	97%	114%	A	92%	108%	A	・危機管理対策研修を学期に1回以上行うことについては各担当者を決め確実にロールプレイなども含め100%行うことができた。危機管理体制についての保護者アンケートは校門がないことへの不安から前期肯定的評価が83.3%で，昨年に引き続き低かった。この改善のため現在は，センサーを設置し，来校があった場合，職員室から必ず確認に出るなど現段階でできることなど実施。結果83.3%であった。両方を平均して91.6%であった。	・危機管理対策研修については，工夫しながら確実に計画的に行う。安心・安全な学校については，校門のない不安を抱えておられる。センサー設置など工夫をしているが，保護者の不安は改善されていない。引き続きPTAの改善要望で校門設置をお願いをしして行くなど，関係機関と連携を取り，できる限りの対策を講じながら，安心・安全な学校つくりに努めてきたい。		
				教職員アンケートでの，肯定的評価【教頭】	85%	100%	118%	A	100%	118%	A	・コミュニティースクール立ち上げの準備と研修については，夏季休業中には昨年に引き続き，市教委山本指導主事を招聘して研修を進めるなど準備を進めてきた。また，準備会の報告等も暮会等で職員に行うなど取り組みを進めた結果，教職員のコミュニティースクールへの理解度のアンケート結果は，前期に続き100%であった。	・コミュニティースクールについては，来年度実施であるので，今後とも準備会等の報告をしっかり行い，教職員と情報を共有して来年度の本格実施に備えていきたい。また，先行実施の学校の取り組みやいろいろな情報を収集し，充実した内容で円滑にスタートが切れるようしていきたい。		
				・指導力の向上について，児童・保護者アンケートでの，肯定的評価【教頭】	85%	89%	105%	A	86%	101%	A	・指導力の向上については，保護者のアンケートでは「学習のルールが守られた中で授業が行われている。」については92.9%の肯定的評価，「子どもは，授業が分かりやすいと言っている。」については，88.4%の肯定的評価た。「子供は，家庭学習や自主学習を進んでしている。」の家庭学習・自主学習の項目については，76.2%の肯定的評価であり，全平均85.8%であった。 A評価であるが前期に比べ，約平均で約3ポイント減であった。この結果を真摯に受け止め更なる指導工夫改善行っていきたい。	・三次市学力テストの結果を分析し，できていなかった問題について，分析し組織的に授業を改善していくとともに，個に応じた課題に対応できるよう工夫を行っていきたい。		

（自己評価）　達成度＝達成値÷目標値　　A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100　C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60